

遺伝性腫瘍診療の 経験から創造へ

～地域連携のNext Stage～

このパネルディスカッションのねらい

AI時代となり遺伝子解析や診断の効率は大きく向上しましたが、遺伝性腫瘍診療における地域連携の重要性は今も変わりません。AIは情報処理を補助できますが、患者の治療方針や家族支援の質は医療者間の地域連携によってさらに高まります。

本セッションでは、**12年前に地域連携体制構築を開始した経緯と成功要因**をプレナリーレクチャーで共有し、北海道・東北・東海の実践者と共に、**臨床・多職種・地域の視点から次世代の地域連携のあり方を検討**します。

得られた知見を各施設での実践に活かし、地域における遺伝性腫瘍診療の発展につなげて頂くことを期待します。

プレナリーレクチャー講師
座長



岩田広治 先生
名古屋市立大学
臨床研究戦略部・特任教授

座長



高磯伸枝 先生
愛知県がんセンター
ゲノム医療センター・
認定遺伝カウンセラー

パネリスト



櫻井晃洋 先生
札幌医科大学
ゲノム予防医学講座・
客員教授



西川隆太郎 先生
名古屋市立大学
産科婦人科学教室・助教



勝部暢介 先生
岩手医科大学
臨床遺伝学科・助教
認定遺伝カウンセラー

日時： 2026年 6月13日（土） 12：50-13：50

会場： 第1会場 （ウインクあいち 2階 大ホール）

お問い合わせ：第32回日本遺伝性腫瘍学会学術集会運営事務局

株式会社コングレ 中部支社 ☎ 052-950-3430 ✉ jsht2026@congre.co.jp